

はじめに

「英語耳」への旅の最終章 ～リスニング 100%のための英単語学習

あなたは今、1つの長い旅路、大いなる挑戦の最終段階にやってきました。

“「正しい音」で整理して英単語を記憶すれば、一生忘れず、英語の発音 & リスニングが完璧になる” そうしたコンセプトで、お陰様で大ヒットシリーズとなった「単語耳^{たんごみみ}」。その仕上げとなる最終・第4巻目が、本書（以下、『単語耳 Lv.4』とも呼ぶ）です。

扱う単語の範囲は、ネイティブ（英語を母国語とする人々）同等の語彙^{ごい}力を持つための上級 2500 語になります。

リラックスした、ストレスを感じない状態で英語を 100%聞き取れる能力 これを私は“完全な「英語耳」”と呼びます。

この“完全な「英語耳」”を獲得すると、何時間英語を聴き続けても疲れることはありません。楽しい内容の英語であれば、何時間聞いても、逆に元気が出てきます。

ネイティブの脳内では、英単語が「音」と「スペル」と「意味」の組み合わせで、独特のパターンで格納されています。要は、こうしたネイティブ同等の、「音」のパターンで整理された脳内語彙空間^{ごい}を、あなたの脳内にも構築すればいいのです。

すると、「音」をトリガーにして、脳内から英単語を、瞬時に出し入れできるようになります。たとえば、[stri:] という音節の発音が聞こえた時点で、瞬時に、相手の使用単語を street [stri:t]（通り）stream [stri:m]（流れ、川）、streak [stri:k]（筋、光線）のたった3つに絞り込める脳ができるのです。

そうした脳内語彙空間の構築のための最短距離を示す学習書こそが、この「単語耳」シリーズです。

“完全な「英語耳」”を獲得した人の脳内は、ネイティブ同等の、「音」で英単語が整理された状態になります。そうすると、英会話の際に英単語の出し入れが瞬時に、極めて省エネでできます。こうなってはじめて、ネイティブの発音する英単語を、リラックスした状態で完璧に聞き取れるようになります。そして、英単語を発音する際には、ネイティブにガンガン伝わる発音が、意識せずとも自然に口から出てきます。

私が1999年に立ち上げたWebサイトには、「英語・発音・^{ごい}語彙」という名前をつけてあります (<http://www.scn-net.ne.jp/~language/>)。「リスニングを100%にするための本質は、発音と^{ごい}語彙だ」と、私は当時から確信していたからです。

その理論の実効性は、私が執筆した「英語耳」「単語耳」シリーズの成功と、「効果があった！」という国内外からの実に多くの反響(初心者や中学生から、TOEIC 高得点者、英語圏に長く住んでいる日本人の方々までから寄せられています)その後起こった英語耳ブームによって、立証されたと思います。

そう、正しい発音とともに^{ごい}語彙をどんどん身につけていけば、あなたも、必ず英語を100%聞き取れるようになるのです。

「でも、英語耳の獲得のためには、いろいろやらなきゃいけないくて、たいへんなんじゃないの? 難しくて、自分には無理なんじゃないの?」

いえいえ、英語耳獲得のためのレッスンは実にシンプルなんです。本書に収録した2500単語を確実に身につける方法も実に単純! **ただただ、本書の付録CDを聞きながら、本書を見て2500語を毎日1回音読すればいいのです。それを、30日間続けてください。**根気は必要ですがツライのは慣れるまで。すぐに習慣化されて、楽しく実行できるようになります。

本書では、より快適に、効率よく音読練習できるように、単語の並べ方を考え抜いて、工夫してあります。本書付録CDには、2500語の音声を、最高レベルのプロのナレーター(^{キンバリー・フォーサイス}Kimberly Forsytheさん/米国人女性)に約70分で収まるよう録音してもらいました。

確かに、禅の修行のように、30回終了するまでには努力が必要です。本当は、「付録CDについて、発音を100回くり返して、お経のように唱えて

ください」と言いたいのですが、今回はおまけして 30 回を最低限度のノルマとします。これを達成すると、必ずあなたに CHANGE が訪れます。

ただし、発音練習は、無理してやりすぎるとノドをいためかねません。また集中力は普通、30 分も続かないものです。ですので、付録 CD の 70 分の音声を 3 つに分割し、朝昼晩の 3 回に分けて音読するなど、自分でやりやすいよう工夫すると良いでしょう。1 回の練習時間をさらに短くし、1 回 14 分程度の練習を日に 5 回やって計 70 分の練習にする手もあります。1 日累計 70 分の練習がキツイなら、たとえば 1 日 24 分程度の音読練習を 90 日間でこなすのでも良いでしょう。これで通して 30 回の音読ができます。もちろん、CD 全体を通して 1 回ずつ発音するよりも、CD の 1 トラック目から順に 30 回ずつ音読していくといったやり方がじっくり来るなら、それでも OK です。

発音が「難しい」単語を「やさしい」に変えるコツ

さて、本書で出てくる一番長い単語は、次の単語です。

char·ac·ter·is·ti·cal·ly [kærəktə'ristikəli] (P.077)
(JACET 番号 7518 / 【副】特徴として)

この単語を発音練習しておけば(付録 CD の 6 トラック目に出きます)あとの 2499 単語の発音はかなり楽になります。この単語には音節が 7 個もあります(単語の中にある「・」が、音節区切り位置を示しています。「音節」とは、1 つの母音に 0~複数個の子音が結びついた音のまとまりです)。7 個も音節がある単語は、本書では 5 つ出きます。ちなみに音節が 6 個ある単語は、vul·ner·a·bil·i·ty など 39 個あり、そのうちの 15 個を本書・実践編のはじめのほう(P.076~参照)にまとめました。

これら長い単語においても、発音のコツは次の 2 つに絞られます。

① 英語の子音の組み合わせパターンには、非常に偏った傾向があります。その傾向を理解して発音することです。具体的には、**3 × 3 のシンプルな 2 次元マトリクスで口の動きを分析し、それを意識して練習しましょう。**

3 × 3 のマトリクスとは、3 行(横)と 3 列(たて)で成り立った表組み

のことです (P.023 参照)。

その基本中の基本となる第 1 行目に来る発音は、[t][d][n]などの舌先を使った発音です。

第 2 行目は、舌の奥を使う発音 [k][g][ŋ]、第 3 行目はくちびるを使う発音 [p][b][m] です。

いっぽう、たて方向の第 1 列目には無声子音が、第 2 列目には有声子音が、第 3 列目には鼻音が来ます (詳しくは後述します)。

char·ac·ter·is·ti·cal·ly [kærəktərɪstɪkəli] の発音を子音に着目して 3 × 3 のマトリクスに分解すると、合計 9 個の子音のうち、第 2 行目の子音 5 個が発音の中心となっているとわかります。その中に第 1 行目の子音 4 個がちりばめられている、という構造です。これがわかると、発音ががぜん容易に変わってきます。

② 英語のタイム感で発音することです。そのポイントは、**アクセントがある音節と、そうでない音節の発音にメリハリをつけること**にあります。アクセントがある音節の母音ははっきり強めに、明確に発音します。いっぽう、アクセントのない母音はあいまい母音にして弱く発音する、または消音にする (音は出さず、音があるような時間だけ経過させる) のです。この母音の強弱の加減が、英語独特のタイム感になります。

英語のタイム感を身につければ、ようやく日本語のタイム感(いわゆるカタカナ式発音)から脱却できます。いくら上手に子音・母音を発音しても、英語のタイム感を身につけない限り、完全な「英語耳」は習得できません。

私の発音講座で、上記 3 × 3 のマトリクスを紹介すると、生徒のみなさんは「あー、そうだったのか。目からウロコが落ちる思いです」という反応をなさいます。そして多くの方が、3 × 3 のマトリクスを意識して発音練習をすると、発音が自然な英語に近づいていきます。

英単語の中にある子音・母音は、ランダムに組み合わせられているわけではなく、英米人に発音しやすい組み合わせで並んでいます。しかし、ネイティブには発音しやすくても、日本語に慣れた日本人には発音しにくい組み合わせが多いのです。

しかし、本書でトレーニングを行えば、あなたの口の筋肉が慣れて、

英語の音の組み合わせを“発音しやすい”と感じるようになっていきます。べらべらしゃべれるということの正体は、英語の「音」の組み合わせに口が慣れていているということなのです。

ネイティブにとって発音しやすい音の組み合わせを、みなさんが発音しやすくなるように考案したのが、「3 × 3の子音のマトリクス」というわけです。この図で、英語の音の組み合わせのからくりを理解し、野球の素振りのように口のトレーニングをくり返せば、なめらかな発音がすぐに可能になります。ネイティブと同じリズム感、タイム感で、単語を発音できます。ひいては、それが「完全な英語耳」の体得へとつながるのです。

私の発音講座では、それでも、リズム感、タイム感がずっと日本語のままの生徒さんも中にはいます。そうした方がタイム感をつかむための仕上げは、意外に思われるかもしれませんが、「**あいまい母音 [ə]**」の**発音方法を指導すること**で達成されます。実は、**あいまい母音の音を弱めて発音するさじ加減こそが、リズム感、タイム感獲得の鍵**だったのです。この練習により、全員の生徒さんが「英語のタイム感」を身につけていきます。

長い英単語は複数の音節で構成されています。日本人は複数の音節を、同じリズム感、同じ強さで発音する傾向があります。それではせっかく長いつづりの英単語を覚えても、**通じない&聞き取れない状態**が改善されません。すべての英単語は、**英語の音節のリズムと強さの感覚を身につけてはじめて正しく発音できる**のです。英語の音節のリズムと強さの感覚を「タイム感」と捉えて、本書で徹底習得してください。

本書『単語耳 Lv.4』では、「単語耳」シリーズでの発音練習の仕上げのために、「3 × 3の子音マトリクス」と「英語のタイム感」の獲得をめざしたレッスンを最初に組んでいます。そして、そのポイントとなるのは「**あいまい母音 [ə]**」の**発音の仕方**だと、まずは肝に銘じておいてください。

単語力はどうやって伸ばす？ ある時期に集中して行なうのが良い

英語の学習方法に関していちばん多い質問は、「**語彙**は、どうやって増やすのが**効率が良い**のでしょうか？」というものです。覚えても覚えても英単語を忘れてしまうので、誰もが悩んでいるのです。

答えは、「**音から入る**」「**たくさんの英単語に出会う**」ことです。具体的には、「**多読**」と「**音読**」を毎日の習慣にすることをお勧めしています。

特に「多読」(ペーパーバックなどで英語の文章をたくさん読むこと)は、習慣化できると、間違いなく英語力を急激にレベルアップできる優れた学習方法です。

実際に、私が実施している英語講座の内容も、多くの試行錯誤を経た結果、結局は「多読」と「音読」のレッスンに絞られてきています。

「多読」によって、実際に英文内で使用されている生きた英単語にたくさん触れることで、単語の意味と使用法が、自然と体得されていきます。

それをくり返し「音読」すれば、発音がネイティブにどんどん近づいていきます。

さらには、何度もくり返し「音読」することで、英文の意味を深く理解することもできるようになります。

半年～1年のうちにTOEIC 試験の点数を150点以上伸ばした受講生を追跡調査したところ、「多読」と「音読」を習慣化できている集団と強い相関があるということもわかっています。

ただし、「多読」を“勉強”と考えて実行すると気持が乗らず、続かなくなりがちです。読書を楽しめるように、個人個人にぴったりのレベルの洋書を読むことが大切です(この辺に関しては、『単語耳Lv.2』などで詳しくご紹介してあります)。

几帳面な受講生ほど、辞書を引きながら多読する傾向がありますが、これは挫折のもとです。「単語の意味が一部わからなくても、ストーリーをだいたい追えればいいんです。わからない単語は気にしなくてもいいんです」と私は指導しています。辞書を引くのは、何度も出てきて気になる単語だけでいいので

す。それらは、辞書を引くことで記憶に残りやすくなるので、辞書を引いても良いでしょう。こうした、一部の単語の意味がわからなくても、楽しみとして「多読」をすることによって、英語を理解するという真の力が付いていきます。

とはいえ、もちろんそのままでは、語彙はなかなか増えません。効果の高い「多読」にも欠点があります。それは、語彙を増やす効率はずっと良くない、という点です。

短い時間で多くの英単語に触れるには、「単語集」の活用が一番です。

普段は「多読」と「音読」を習慣にしておき、その上で時々、1~2ヶ月ぐらいの間、英単語の獲得に集中して時間を割くことをお勧めします。1年に2度程度でいいのです。各1~2ヶ月ぐらい、語彙の獲得に集中してみましょ。時期や季節は、いつでもかまいません。自分のモチベーション（やる気）が高まった時に、意識して、単語の集中学習をするのです。モチベーションは、下がったり上がったりします。モチベーションが低いときに無理して英単語学習を続けてもストレスがたまって、かえって英語に嫌悪感がわきます。これではマイナスです。そんな時は、楽しむ「多読」と「音読」に戻ってください。次第に、「やっぱり単語力があるほうが、洋書を楽しめるな」という気持ちも高まっていきます。

「単語耳」シリーズは、集中的に語彙を増やすために最適な教材です。「発音」からたくさんの語彙に触れるため、一度徹底レッスンをすれば、英単語を忘れにくくなります。単語の「正しい発音」が真っ先に身に付くので、「多読」の際に脳内で「正しい英語の音」が鳴り、「多読」=「リスニング」のレッスンになります。本シリーズで「正しい発音」を脳にインプットしておくと、「多読」で再会した際に、発音の記憶に関連付けられて、英単語の意味イメージがどんどん蓄積されていくことになります（詳しくは理論編で述べます）。

「単語耳」シリーズ（全4巻）で習得する語彙は、JACET 8000（社団法人大学英語教育学会 = JACET が厳選した使用頻度の高い8000語）の英単語群です。書籍『JACET 8000 英単語』（桐原書店）によると、この語彙数で、英字新聞やTOEICテストに出てくる英単語の97%前後をカバーできるそうです（固有名詞、外国語等を除く）。

本書『単語耳 Lv.4』（JACET の 5501 番～8000 番目の単語を収録）が加わったことで、JACET8000 の全 8000 単語が、CD 音声付きですべて最後までそろいました。ご自分にぴったりあったレベルの巻を選んで、集中して発音練習し、「正しい音」を脳に焼き付けてください。全 4 巻ありますが、どの巻から始めていただいても結構です（詳しくは P.011 参照）。

あなたの話す・書く英語の知的さは 語彙力で見られている

一度身につけた英語の正しい発音方法は、あなたの一生の財産になります。人生のできるだけ早い段階で、その財産を獲得してください。

語彙の習得は、くれぐれも“発音から”にしましょう。テキストを見ながら発音練習をすれば、単語のつづりも同時に身につけられます。英語の子音・母音の組み合わせのパターンは、本書の 2500 語の発音練習でほぼすべて習得できます。

普段は気づかないような発音とつづりの関係性を、本書ではパターン化して見せています。その都度説明するなどして、徹底的に「可視化」してあります。発音とスペルを意識して記憶に取り込んでいるうちに、意識しなくても使いこなせるようになります。

8000 語レベル以上の英語を正確に発音でき、正確に書ける人こそが「知的な英語を使う人」として世界中で高く評価されます。世界を股にかけたビジネスで一目置かれる人物は、「豊富な語彙を使える、知的な英語を使う人」です。その基本は、“**正確な発音ができること**”にあります。

知的な英語を身につけることは、お金では買えない“人生の財産”を手に入れることです。この財産はあなたの人生において失われることはありません。いちど手に入れたら、一生増え続けます。たくさん増やして、自己実現をしてください。そしてその成果と方法は、ぜひあなたの後輩にも伝えるようにしてくださいね。著者の願いです。

では、はじめましょう！

「単語耳」シリーズ(全4巻)のそれぞれの巻の役割

「単語耳」シリーズでは、JACET(大学英語教育学会)が厳選した計8000語を4冊に分け、それぞれ2枚(本書Lv.4のみ1枚)の付録CD付きで提供しています。自分の学習レベルに応じて“完全な「英語耳」”を獲得するために必要十分な、英単語を脳に焼き付けるトレーニングをしていただくためです。

① 第1巻「理論編+実践編Lv.1」:中学校レベルの基本単語1000語を学習します。子音・母音の発音ごとに1000単語を分類し、英語の正しい子音・母音の音をしっかり身につけられます。使用頻度が非常に高い単語群が並ぶ割に、「こんな簡単な単語の、正しい音をこんなに知らなかったとは!」という目からウロコの体験をする方も多いようです。1枚目のCDには単語ごとに「クリア・ゆっくり」と「ナチュラル」な発音が連続して収録されています。英語の先生のみなさんから「発音の教科書として生徒にやらせると効果が大きい」というコメントもいただいています。

② 第2巻「実践編Lv.2」:高校~大学入試レベルの新規2000語を学習します。子音・母音を組み合わせた、英語独特の音のまとまりである「音節」のほぼ全パターンを身につけられます。これにより、ほぼすべての英単語を構成する音節の音が、既知の音となります。ここまで学習すると、英会話や英語音声の聞き取りに開眼する方が増えてきます。実行した多くの方々から、「英語の発音の構造がよくわかった」とご好評をいただいている作品です。

③ 第3巻「実践編Lv.3」:大学レベルの新規2500語(Lv.1 & 2収録単語の再録も含めると、のべ3100語)を学習します。新たに、語源を使った単語学習を取り入れることで、多くの日本人英語学習者の課題である単語力3000語の壁を突破します。英単語のスペルと発音と意味との結びつきを立体的に体得できます。Lv.1 & 2同様に、英語の子音・母音・音節の音も習得できます。

④ 第4巻「実践編Lv.4」(本書):ネイティブ同等レベルになるための最後の2500語を学習します。英単語の「音の組み合わせパターン」をより顕在化^{けんざい}させて身につけ、潜在意識^{せんざい}の深いところにまで焼き付けます。これにより、無意識かつ瞬時に、英単語の音を脳から出し入れ可能になります。長いスペルの英単語を攻略し、どのような英単語でも聞き取れて発音できる総合的な発音力が身につきます。2500語を約70分で音読することで発音のための筋肉が強化され、単語の脳へのスピードチャージができます。